

Q6 あなたが指導している競技種目において、世界のトップレベルで活躍しているアスリートは、長期競技者育成（LTAD）モデルの各段階においてどのように育成されてきましたか。育成環境、指導者、トレーニング内容、競技成績等の視点から整理してみましょう。

→27～29ページ

競技種目名： _____

早期専門化スポーツ 後期専門化スポーツ

段階	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
名称	FUNDamentals™	Learning to Train	Training to Train™	Training to Compete™	Training to Win™
男子	6-9	9-12	12-16	16-18	18-
女子	6-8	8-11	11-15	15-17	17-

Q7 LTADモデルやQ6で整理した情報をもとに、タレント発掘・育成（TID）プログラムを含む「革新的な」アスリート・パスウェイ（育成の道筋）を構想してみましょう。

→29～30ページ

表3●UKスポーツが2012オリンピック・ロンドン大会に向けて実施したTIDプログラム

プログラム名	開始年	内容
スポーティング・ジャイアンツ Sporting Giants	2007	長身選手を対象とした、ボート、ハンドボール、バレーボールへの種目転向型タレント発掘
ガールズ・フォー・ゴールド Girls4Gold	2007	優れた素質を有する女性競技者を発掘。スケルトン、カヌー、近代五種、ボート、セーリングが対象競技。
ピッチから表彰台へ Pitch to Podium	2008	サッカー、ラグビーから他競技への種目転向型タレント発掘
長身のタレント Tall and Talented	2009	長身選手を対象とした、ボート、バスケットボールへの種目転向型タレント発掘
ファイティング・チャンス Fighting Chance	2009	キックをベースとした格闘技出身で高いレベルにあるアスリートを発掘し、テコンドーのエリートアカデミーにおけるトライアル機会を提供する
パワーで表彰台へ Power2Podium	2010	スピードとパワーを備えた競技者を発掘。陸上競技、カヌー（スプリント）、自転車（スプリント）、ウエイトリフティング、スケルトン、ボブスレー、七人制ラグビーのいずれかの競技での適性を評価。

（JSC東京J/ロンドンJ2012「第30回オリンピック競技大会（ロンドン/2012）総括レポート」より）